

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県 10 / 10
- ・ 県内全域への事業であるため、県負担が妥当。

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	268	審査員・講師謝金等
旅費	341	審査員・講師旅費等
需用費	691	食品衛生に係る消耗品、食育マイスターリーフレット印刷等
合計	1,300	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 第3次岐阜県教育ビジョン
基本方針 3 未来を切り拓くための基礎となる力を育む教育の推進
17 健康教育・食育の推進
- ・ 第3次 岐阜県食育推進基本計画

事業評価調書（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

小学生では、「食が分かる・食を作る・食を働きかけるぎふの子」を育てる。中学生では、学校給食を主体的にとらえ、栄養価などの知識や実践力を身に付ける。高校生では、食の知識や技術を日常の食生活で実践し、食の自立の課題解決に取り組む生徒を目指す。地域へは、学校給食への理解や食育への関心を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H22)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
中学生学校給食選手権参加校数	-	19校	25校	30校	40校	47.5%
高校生食育リーダー実施校数	-	4校	6校	10校	15校	26.7%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	R2年度は、新型コロナウイルス感染症予防を考慮し、中学生学校給食選手権の審査を一次審査のみで実施。 休校期間もあったため、家庭で過ごす期間に昼食作りを推奨した、「ステイホームの部」を開催し、実施方法の工夫を行った。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>第3次食育推進基本計画では、若い世代を中心とした食育の推進が求められており、実践力を育てる事業の必要性が高まっている。 (学校種における実践力育成の取組としてそれぞれ必要である。)</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：まだ期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>校内での学校給食や食への興味関心に影響されているので、事業の趣に対する理解を高める。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>マイスター委嘱、中学生学校給食選手権などによって、意欲的に食への関心が高まっている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>家庭の食育マイスターでは、家庭との連携した各学校の取組の工夫。中学生学校給食選手権では、生徒の関心を高めるための事前の食に関する指導や食育の視点を踏まえた授業の位置づけ。高校生食育リーダーでは、実践力が身に付いたことの評価方法の検討。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>県民ニーズが高い小学生の家庭の食育マイスターの取組は、児童の食への興味関心や家庭科の学習を発展させた活動として高評価を得ているため、継続して実施していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	